



「学校組織マネジメント研修会」

対象:高知市立教員(学年主任,教務主任等各校1名)及び
高知市立学校10年経験者研修受講者,参加希望教職員
平成24年8月9日(木)実施

国士舘大学 北神 正行 教授

ミドルリーダーの役割とは？

学校における組織マネジメントとは・・・

学校教育目標という組織の目的達成に向けて、組織の構成員が分業・協業しながら、組織をうまく動かすことができるようにすることである。

学校に求められているものは・・・

教員集団をチームと捉え、教員には「チームで対応する力」、校長にはチームをまとめる「リーダーシップ・マネジメント能力」が求められている。

ミドルリーダーは学校のキーパーソン

キーパーソンとは主任などのリーダー、専門的な知識を持っている人、仕事や私生活の相談に積極的に応じている人などである。活性化している学校には、管理職以外にキーパーソンが存在しているケースが多い。

ミドルリーダーに求められるマネジメントスキル

- (1) **自ら思考する力**
自ら得た情報をもとにして自ら思考すること
- (2) **ビジョンづくり力**
将来のビジョンづくりに関するノウハウを獲得すること
- (3) **組織する力**
組織をつくり動かすノウハウを持っていること
- (4) **挑戦する精神**
困難な課題にも果敢に挑戦しようとする精神と柔軟さを内包したタフネスさ

演習

理想的な職場にするためにミドルリーダーが果たす役割

受講者がそれぞれのグループで考えました

あなたが考える理想的な職場は？

達成するために

ミドルリーダーの役割とは？

笑顔のエネルギー
・ 笑いのある職員室
・ 明るく 朗らか
・ 生き生きしている

チームワーク
・ みんなで動く
・ みんなが協力的
・ フォローし合える

効率よく
・ 仕事の分担ができる
・ 見通しができる職場

心の栄養
・ 飲み会の参加が多く
・ 盛り上がる



何でも話せる
・ 何でも相談できる
・ 本音で話せる
・ 職員会で意見がたくさん出る
・ 困っている仲間へ声がけできる

自分から
・ 声をかける
・ 周りの様子に気を配る

伸びゆく力
・ みんなが同じ目標に向かって
・ 取り組んでいる
・ 子どもがしっかりと学んでいる

聞く
・ 共感して聞く
・ 聞き上手になる

つなぐ
・ 若い先生とベテランの先生をつ
・ ながる役割をする



笑顔
・ 元気にあいさつ
・ 自分が笑顔

前向き
・ 自分の気持ちを
・ いつも上向きに

かかわる
・ 困っていることを率直に話す
・ コミュニケーションをよくとる

実践発表

「全ては生徒のために」主幹教諭として

実践発表者 三里中学校 堤信雄主幹教諭

主幹教諭の仕事は、管理職とのつながり、分掌主任同士の横のつながりを大切にしながら、校長の考えを理解した上で察し、課題解決のために各分掌主任へのアイデアを発信することである。そうすることで、ミドルリーダーが育成され、各主任の仕事が活性化していくと思う。

『組織マネジメントは、押しつけや管理ではなく、いかに各人の才能・特性を引き出し、発揮させるかがポイントであると考えます。』

<受講者の感想>

- ・ リーダーとして「人を育てる」という意識を持つことが、何をすべきか考えるひとつの指標となるのだと感じた。
- ・ 具体例を通して学校組織のあり方について大変わかりやすい内容だった。組織として機能するためには各分掌が自らの役割について責任と自覚を持ちつつ、他と連携し系統的に取り組むことの重要性を学ぶことができた。
- ・ これからの学校教育全体の改革に向けて、個人としての果たすべき役割を自覚し、チームとして協力することの必要性を教えていただいた。演習の中で思案した、ミドルリーダーとしての役割のうち自分のできる事柄から1つずつ取り組んでいきたいと思っている。



学校組織マネジメントについて語る北神教授

防災担当教員研修会

講師 鳴門教育大学 阪根 健二 教授

目的 学校における防災教育の在り方について研修を深める。

平成24年8月10日(金)実施

講話 「東日本大震災に学ぶ」 ～学校における防災教育の推進をめざして～

防災教育の視点

子どもたちや若い人たちが率先して防災に関わり、避難が困難な人たちと一緒に生きていく。
日常の教育や活動こそが大きな力になる。
「**あきらめない防災・地域と(を)つなぐ防災**」を考える。

防災教育の本質

釜石市での事例は、「**学校内からの避難行動**」について焦点が当たっているが、実は、すでに**7割以上の児童が下校していた釜石小学校**の例こそが、本来の防災教育の成果かもしれない。

災害対応の循環体系 (Disaster Life Cycle)

- ① 災害(Disaster)発生
- ↓
- ② ダメージアセスメント(被害評価)を行う
- ↓
- ③ 緊急対応(Response)を行う
- ↓
- ④ 復旧・復興(Recovery/Reconstruction)が進む
- ↓
- ⑤ 被害抑止(Mitigation)や事前準備(Preparedness)を行う
- ↓
- ⑥ 予知, 早期警戒システムを装備し, 災害に備える

「復興したら、終わりだ」と考えるのではなく、「**循環サイクル**」として考える必要がある。

一方向ではなく、**多方向の視点**がある教材を収集する。

子どもを起震車に乗せ、**ゆれ**を体感させるだけで良いのか?「**このゆれでアレ!!**」その先へ生かすことが大事。**この震度**の時に**アノ津波**がくる。

南海地震の際、横揺れの方法は、**北西から南東にかけて揺れる**だろうが、それよりも、**転倒防止が必要**。

ポイント

防災・減災は、**当事者意識・災害イマジネーション**があるかないかで決定的な差が生まれる。「もし、地震が発生した場合、どういった動きをすればいいのか」という実際の動きを**シミュレーション(simulation)**する。

演習 「地域別学校防災マニュアルの点検の在り方」

☆ 危機管理の4つの視点を通して、防災マニュアルの点検を行う
(予見・予防・回避・対応)



どのグループも熱心に協議が進み、阪根教授に直接、質問や意見を聞く場面も見られました。



中学校区別に集まり、「学校防災マニュアルチェックリスト」をもとに協議し合い、**各校の取り組みや対応の仕方**などについて**共通認識**を図りました。

<受講者の感想>

- ・ 防災の研修は、何度も繰り返し受ける必要があると感じた。防災担当として学んだ情報を職場で広めて、体制を整えていきたい。加えて、担当者だけでなく、他教員も研修を受けるべきだと思う。日常の忙しさの中で防災が後まわしになってしまっている感がある。
- ・ 防災担当としての責任をずっしりと感じさせられた。「地域の誇りや願いを伝えていく」「地域の資産を探る」という言葉が心に残った。二学期からの実践に生かしていきたい。
- ・ 危機管理や防災教育について、実例や実践を交えた話が聞けたので、率先して取り組んでいきたいと感じた。今日の話を防災教育推進教員にも話し、カリキュラムの見直しやあり方について考えていきたいと思う。

ご意見・ご感想等を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。